

## 貸借対照表

(令和2年3月31日現在)

(単位:千円)

科目名	金額	科目名	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	60,251,018	固定負債	25,015,977
有形固定資産	56,933,704	地方債	21,553,917
事業用資産	37,930,278	長期未払金	-
土地	18,720,188	退職手当引当金	2,830,275
立木竹	7,396	損失補償等引当金	-
建物	54,585,492	その他	631,785
建物減価償却累計額	-36,401,582	流動負債	3,010,471
工作物	1,493,811	1年内償還予定地方債	2,636,030
工作物減価償却累計額	-483,014	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	313,060
航空機	-	預り金	61,381
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	28,026,448
その他減価償却累計額	-	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	7,987	固定資産等形成分	61,679,613
インフラ資産	18,872,775	余剰分(不足分)	-26,640,161
土地	5,707,535		
建物	69,559		
建物減価償却累計額	-44,282		
工作物	40,175,736		
工作物減価償却累計額	-27,159,136		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	123,363		
物品	719,175		
物品減価償却累計額	-588,525		
無形固定資産	14,759		
ソフトウェア	14,759		
その他	-		
投資その他の資産	3,302,555		
投資及び出資金	2,431,101		
有価証券	-		
出資金	2,431,101		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	1,910,369		
長期貸付金	6,588		
基金	602,878		
減債基金	-		
その他	602,878		
その他	-		
徴収不能引当金	-1,648,381		
流動資産	2,814,882		
現金預金	1,315,190		
未収金	135,754		
短期貸付金	-		
基金	1,428,595		
財政調整基金	1,017,288		
減債基金	411,307		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-64,658		
資産合計	63,065,899	純資産合計	35,039,451
		負債及び純資産合計	63,065,899

## 行政コスト計算書

自 平成31年4月1日  
至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
経常費用	22,306,085
業務費用	10,927,440
人件費	5,054,518
職員給与費	4,272,261
賞与等引当金繰入額	313,060
退職手当引当金繰入額	214,760
その他	254,437
物件費等	5,576,491
物件費	3,630,562
維持補修費	147,516
減価償却費	1,798,412
その他	-
その他の業務費用	296,432
支払利息	136,348
徴収不能引当金繰入額	42,264
その他	117,820
移転費用	11,378,645
補助金等	3,205,895
社会保障給付	5,042,991
他会計への繰出金	3,105,242
その他	24,517
経常収益	931,082
使用料及び手数料	356,822
その他	574,260
純経常行政コスト	21,375,003
臨時損失	262,411
災害復旧事業費	11,437
資産除売却損	250,974
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	214,405
資産売却益	214,405
その他	-
純行政コスト	21,423,009

## 純資産変動計算書

自 平成31年4月1日  
至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	
前年度末純資産残高	34,534,403	61,864,566	-27,330,163	
純行政コスト(△)	-21,423,009		-21,423,009	
財源	21,925,809		21,925,809	
税金等	16,361,942		16,361,942	
国県等補助金	5,563,867		5,563,867	
本年度差額	502,800		502,800	
固定資産等の変動(内部変動)		-187,202	187,202	
有形固定資産等の増加		1,577,504	-1,577,504	
有形固定資産等の減少		-2,159,724	2,159,724	
貸付金・基金等の増加		1,259,729	-1,259,729	
貸付金・基金等の減少		-864,711	864,711	
資産評価差額	-	-	-	
無償所管換等	2,249	2,249		
その他	-	-	-	
本年度純資産変動額	505,049	-184,953	690,002	
本年度末純資産残高	35,039,451	61,679,613	-26,640,161	

## 資金収支計算書

自 平成31年4月1日  
至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	20,620,408
業務費用支出	9,241,763
人件費支出	5,209,517
物件費等支出	3,791,180
支払利息支出	136,348
その他の支出	104,718
移転費用支出	11,378,645
補助金等支出	3,205,895
社会保障給付支出	5,042,991
他会計への繰出支出	3,105,242
その他の支出	24,517
業務収入	22,569,859
税金等収入	16,372,951
国県等補助金収入	5,302,891
使用料及び手数料収入	353,555
その他の収入	540,463
臨時支出	11,437
災害復旧事業費支出	11,437
その他の支出	-
臨時収入	4,813
業務活動収支	1,942,827
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	2,012,514
公共施設等整備費支出	853,227
基金積立金支出	1,008,635
投資及び出資金支出	146,459
貸付金支出	4,193
その他の支出	-
投資活動収入	1,239,625
国県等補助金収入	256,164
基金取崩収入	745,782
貸付金元金回収収入	4,219
資産売却収入	233,461
その他の収入	-
投資活動収支	-772,889
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	2,570,986
地方債償還支出	2,569,776
その他の支出	1,210
財務活動収入	1,412,580
地方債発行収入	1,412,580
その他の収入	-
財務活動収支	-1,158,406
本年度資金収支額	11,533
前年度末資金残高	1,242,276
本年度末資金残高	1,253,810
前年度末歳計外現金残高	74,019
本年度歳計外現金増減額	-12,638
本年度末歳計外現金残高	61,381
本年度末現金預金残高	1,315,190

## 注 記

### 重要な会計方針

□

#### 1. 有形固定資産等の評価基準及び評価方法□

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得価額とし、取得価額が不明なものは原則として再調達価額としています。ただし、開始後については、原則として取得価額とし再調達は行わないこととしています。また、物品については原則として取得価額または見積価格が50万円（美術品・骨董品は300万円）以上の場合に計上しています。□

#### 2. 有価証券等の評価基準及び評価方法□

##### ① 出資金のうち、市場価格があるもの

会計年度末における市場価格をもって貸借対照表価額としています。

##### ② 出資金のうち、市場価格がないもの

出資金額をもって貸借対照表価額としています。□

ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。

なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下したとき」に該当するものとしています。□

#### 3. 有形固定資産等の減価償却の方法□

##### ① 有形固定資産（事業用資産、インフラ資産） □

定額法を採用しています。□

##### ② 無形固定資産□

定額法を採用しています。□

□

#### 4. 引当金の計上基準及び算定方法□

##### ① 徴収不能引当金□

過去5年間の平均不納欠損率により、または個別に回収可能性を検討し計上しています。□

##### ② 賞与等引当金□

翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しています。□

##### ③ 退職手当引当金□

地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っています。□

##### ④ 損失補償等引当金

地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算定方法に従っています。 □

#### 5. リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています（少額リース資産及び短期のリース取引には簡便的な取扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っています。）。□

#### 6. 資金収支計算書における資金の範囲□

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としています。□

このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでいます。□

#### 7. その他財務書類作成のための基本となる重要な事項□

消費税等の会計処理は、税込方式としています。 □

### 重要な会計方針の変更

該当する変更はありません。

### 重要な後発事象

該当する事象はありません。

### 偶発債務

該当する債務はありません。

### 追加情報

□

#### ① 対象範囲（対象とする会計） □

一般会計、住宅新築資金等貸付金特別会計、土地区画整理事業特別会計 □

□

#### ② 一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異

一般会計等から、土地区画整理事業特別会計の中の保留地処分金分を除いた部分を普通会計としています。□

#### ③ 出納整理期間について□

財務書類の作成基準日は、会計年度末（3月31日）ですが、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。□

（根拠条文：地方自治法第235条の5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する。」）□

#### ④ 表示単位未満の金額は四捨五入することとしているため、合計等の金額が一致しない場合があります。□

#### ⑤ 地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況□

実質赤字比率	—
連結実質赤字比率	—
実質公債費比率	10.6%
将来負担比率	64.8%□

#### ⑥ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額 □

7,348千円□

□

#### ⑦ 繰越事業に係る将来の支出予定額

繰越明許費□ 1,480,872千円□

□

#### ⑧ 基準変更による影響額等（主なもの）□

基準変更による影響額等はありません。□

□

#### ⑨ 売却可能資産に係る資産科目別の金額 □

土地 2,643,058円 建物 1,878,120円 工作物 23,655,456円□

□

#### ⑩ 減債基金に係る積立不足の有無及び不足額□

積立不足はありません。□

□

#### ⑪ 基金借入金（繰替運用）の内容□

期間	繰替使用額	(千円) □
財政調整基金	平成31年4月22日～令和元年6月11日	1,000,000□

公共施設整備基金	平成31年4月22日～令和元年6月11日	100,000
減債基金	平成31年4月22日～令和元年6月11日	100,000
財政調整基金	令和2年2月20日～令和2年3月24日	1,600,000

□  
 ⑫地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額  
 22,889,158千円□

□  
 ⑬将来負担に関する情報（地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素）

- イ. 一般会計等に係る地方債の現在高 24,189,947千円□
- ロ. 債務負担行為に基づく支出予定額 なし□
- ハ. 一般会計等以外の特別会計に係る地方債の償還に充てるための一般会計等からの繰入見込額 8,736,685千円
- ニ. 組合等が起こした地方債の償還に係る負担見込額 870,425千円□
- ホ. 退職手当支給予定額に係る一般会計等負担見込額 2,830,275千円□
- ヘ. 設立法人の負債の額等に係る一般会計等負担見込額 なし□
- ト. 連結実質赤字額 なし□
- チ. 組合等の連結実質赤字額に係る一般会計等負担見込額 なし□
- リ. 地方債の償還額等に充当可能な基金 2,142,599千円□
- ヌ. 地方債の償還額等に充当可能な特定の歳入 3,620,764千円□
- ル. 地方債の償還等に要する経費として基準財政需要額に算入されることが見込まれる額 22,889,158千円

⑭一時借入金□  
 一時借入金の増減は含まれていません。□  
 一時借入金の限度額 3,200,000千円  
 一時借入金に係る利子額 306千円□

⑮重要な非資金取引□  
 減価償却費 1,798,412千円□  
 賞与等引当金 313,060千円□  
 退職手当引当金 214,760千円□  
 徴収不能引当金 42,264千円